

ぶうげんびりあ3月

2021年 3月号 No.261

<https://ainohamajiaikai-k.or.jp/>

編集・発行 障害者支援施設 愛の浜園
奄美市名瀬大字知名瀬2504
TEL: 54-8011 FAX: 54-8012

No. 1



令和2年度も今月で終わりになります。皆さんにとって今年度はどのような年だったでしょうか？愛の浜園の一年間を振り返ると、新型コロナウイルスの脅威で、これまでの生活スタイルや感染予防への対策で大きな影響がありました。年度初めに計画していた様々な行事やイベントが中止になり、お盆外泊やお正月外泊、面会が制限され、利用者には理解しづらい窮屈な一年となりました。それでも、園内では、実施できる行事を工夫し、趣向を凝らしながら、利用者の笑顔の為に取り組んでまいりました。満足とはいきませんが、その中でもたくさんの思い出を作る事もできました。しかし、忘れられない辛い出来事もありました。グルーホームフレンド3の火災です。利用者の怪我等はなかったものご家族、利用者、地域住民を不安にさせ、多大なる迷惑をかけた事は、改めてお詫び申し上げます。このような様々な出来事があった一年でしたが、令和3年度に向けて色々な計画や話し合いが行われています。課題もたくさんあります。その課題を一つ一つ、真摯に受け止め、利用者の「幸せ」の為に前を向いて取り組んでいきたいと考えています。(課長代理:辻原)

3月行事予定表

1日(月): 体重・血圧測定
9日(火): 音楽の日
16日(火): 避難訓練
17日(水): 健康相談

お花見ドライブ ～生活介護～

1月にバスを貸し切って、『恒例の花見遠足!』の予定でしたが、今年はコロナ禍という事もあり、少人数での花見ドライブとなりました。龍郷町の本茶峠(ほんちゃとうげ)や奄美市の崎原(さきばる)を公用車で巡り、新聞にも掲載されていた緋寒桜が、今年も綺麗に奄美のあちらこちらに咲いているのを見て、車内では利用者さんが「わー、綺麗。」「ほら、あそこも綺麗よ。」「また来たいね。」と、嬉しそうに話をしていました。いつもの様に利用者さんも職員も一緒になり、大人数で桜を見ながら賑やかに過ごす事が出来なかったのには、一抹の寂しさを感じましたが、少人数でも花見に行き、春を感じられた事は、利用者さんにとって、心癒されるひと時になったと思います。私自身、自然の草や木々、花を観察すると、今年も春がやってきたんだと感じます。来年は、みんなでわいわい楽しくにぎやかに花見遠足を行えたらいいなと願う、お花見ドライブになりました。(記事:松原(世))



お誕生日 おめでとうございます

満林 アツ子さん

栄 徹さん

岡山 いずみさん

陶芸活動の紹介

愛の浜園の日中活動に陶芸があります。作業に参加している利用者さんのお話をしたいと思います。短期入所を利用している積 幸博(せき ゆきひろ)さんです。陶芸は初体験という事でしたが、本人も楽しんでる様子で、昨年10月頃から陶芸の作業に取り組み約4カ月が経ちました。12月にコーヒーカップの模様付けを行い、本焼きが終わり出来上がったコーヒーカップを積さんにプレゼントしました。嬉しそうな表情を浮かべ、さっそくブラックコーヒーを一杯。「いつもより少し美味しく感じるね。」と満足そうでした。最近「陶芸が楽しい。」と言ってくれるようになり、積さんの相談員が最近お皿を割ってしまったと話を聞いたそう、「次は相談員にお皿を作ってあげないかね。」と話しています。愛の浜園の陶芸を通して、利用者さんが次の目標を持ち、また人の為に何かをしてあげたいと思ってくれた事、利用者さんの支援と陶芸をしていてよかったなあとしみじみと感じる一幕でした。(記事:恵(拓))



ヨシエ姉さんと愛の浜園

2月5日に池田ヨシエさんが92歳の誕生日を迎えました。月一回の昼食時間に担任がヨシエさんの好きなメニューを提供していますが、この日は、誕生日に合わせて特別食を提供し、みんなで歌を歌ってお祝いしました。また、居室の方も担任が綺麗に飾り華やかになっていました。そして夕方になると、グループホームから朝谷さんが「ヨシエ姉、おめでとう。長生きしてね。」とプレゼントの千羽鶴を届けに来てくれました。ヨシエさんは朝谷さんの言葉に大きく何度も頷いていました。ここ数年、入院や体調を崩す事もなく元気に過ごしている事が私たちはとても嬉しいです。ここで食事時間の一コマを紹介します。食事をしているヨシエさんの元に榮野園長が歩み寄り、頭を前に出すとヨシエさんは「ポンポン」と園長の頭に触れ、その儀式が終わると深々と頭を下げ、お礼を言って嬉しそうに去る園長。食堂でのお決まりのやりとりです。まるで園長に「頑張りなさい。」とでも言っているかのようです。ヨシエさん、お誕生日おめでとうございます。これからもゆっくり楽しく過ごしましょうね。(記事:大田)



三賞受賞者

<p><努力賞></p> <ul style="list-style-type: none"> ・西 順子さん、高 由香さん …ストックヤードでの分別作業を頑張りました。 ・栄 徹さん…食後、支援員の声掛けで自分の湯呑みを片付ける事ができました。 ・池田 ヨシエさん…92歳の誕生日を元気に迎える事ができました。 ・森山 麻季亜さん…外泊が(コロナ感染予防の為)延期になりましたが、納得して待つ事ができました ・泉 光太郎さん…衣類を洗濯に出す事ができました。 ・平田 広人さん…外泊の計画を立て、計画通りに実施できました。 ・窪 真奈美さん…短期入所を初めて利用し頑張って生活しています。 	<p><親切賞></p> <ul style="list-style-type: none"> ・光 優輔さん…友達の車椅子用テーブルが倒れそうなのを壁に立てかけてくれました。 <p><奉仕賞></p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹田 美喜子さん…カフェタイムでのコップ洗いを頑張っています。 ・森山 真智代さん…他事業所で習った創作飾りを沢山作り、女性棟のホールや誕生者の部屋の装飾をしてくれました。 ・神田 文男さん…支援員の手伝い(シーツ交換)をしてくれました。 ・榮 敏郎さん…男性棟のタオルたたみを自ら協力してくれました。
---	--

認知症サポーター養成講座研修～利用者にとって一番の幸せを応援するために～

2月18日(木)、「認知症サポーター養成講座」の研修が愛の浜園で行われました。講師名瀬地域包括支援センター、島名 博美(しまな ひろみ)センター長を始め4名の皆様に来園して頂きました。この研修の目的は、愛の浜園が「障害者支援施設」であり「高齢者施設(老人ホーム)」ではない事から、認知症に対する基本的な知識を持たない私たちのスキルアップの為の研修会で約30名の職員が受講しました。講師の先生からは、「まずは正しい知識をもつことから…」という事を教えて頂き、認知症を発症するまでの流れやこれまでのデータを基に理論的に説明して頂きました。また、日常生活で起こり得る場面を寸劇で解りやすく伝え、対応のポイントや「老化による物忘れ」と「認知症の物忘れ」の違い、「認知症への予防」や「対応方法」等も学ぶ事ができました。その中でも一番、興味深かった事は、ダウン症候群の方の認知症発症率が55歳時点で5人に3人。その9割以上がアルツハイマー認知症を発症するリスクがあるというデータでした。この知識や情報を知っているか知らないかでは大きな違いがあります。利用者に対しての支援方向性や対応の仕方、環境調整が異なるからです。実は、今、奄美地区でも障害者支援施設の高齢化が課題になっており、昨年度、自立支援協議会定例会(地域の関係者が集まり、地域の課題を共有しサービス基盤の整備を着実に進めていく役割を担っている会議)でも検討されました。「障害者支援施設の役割」や「高齢者施設の役割」等、障害者も高齢になり、医療行為が必要になるケースが増えてきています。また、認知症を発症した時、障害者支援施設での環境や対応、体制にも限界があり、利用者自身が苦しむケースもあります。それでも、現場の職員は、「私たちの施設で支援したい。」そのような想いで高齢の利用者と寄り添って生活してきました。「利用者にとって本当にこの環境でよかったのだろうか?」「私たちの自己満足ではないだろうか?」と自問自答する日々もある事が現状です。正しい答えは今でも解りません。しかし、私たちが考えなければいけない事は、利用者のベストの環境はどこなのかと、考えることや各関係機関と連携し議論する事が大切だということです。正しい知識と冷静な判断、安全が保たれなければ本人が苦しむ事になります。私たちはこの数年間、高齢利用者と向き合い、支援をしながら学んできました。「その利用者にとって一番の居場所を見つけ「幸せ」を全力で応援する。」その事も私たち障害者支援施設の役割ではないかと認知症の研修を通して学ぶ事ができました。本当に実りある研修をありがとうございました。(記事:辻原)



慈愛会が県内第1号に認定!! 障害者雇用に関する優良な中小事業主に対する認定制度(もにす認定制度)

3月2日(火)、鹿児島労働局(局長 三輪 宗文)にて、当法人 慈愛会(理事長 今村 英仁)は、障害者雇用に関する優良な取り組みを行う中小事業主認定制度「もにす認定制度」の鹿児島県内第1号として、認定を受けました。この制度は、障害者雇用の促進および雇用の安定に関する取り組みの実施状況などが優良な中小事業主を厚生労働大臣が認定する制度で、今年の4月から実施されています。当園でも6年以上前から、障害者雇用の促進に取り組んでおり、今回、慈愛会全体の取り組みが認められ、県内1号に認定されました。これからも「地域における社会福祉法人としての使命・役割を明確にすることではないかと考えております。その為には、まず一人一人が地域に目を向け、地域の方々の声に耳を傾け、私たちには何が出来るのかを考え、地域に必要とされる法人を目指し、取り組んでまいります。」



愛称「もにす」は「共に進む(ともすすむ)」の略称で、企業と障害者が共に明るい未来や社会に進んでいくことを期待して名づけられました。



～利用者にとって一番の幸せを応援するために②～

私たち愛の浜園職員はスキルアップの為、新人研修やオンラインを活用したさまざまな研修(2月は、摂食嚥下障害の基礎や介護ロボットについて等)を受けています。

